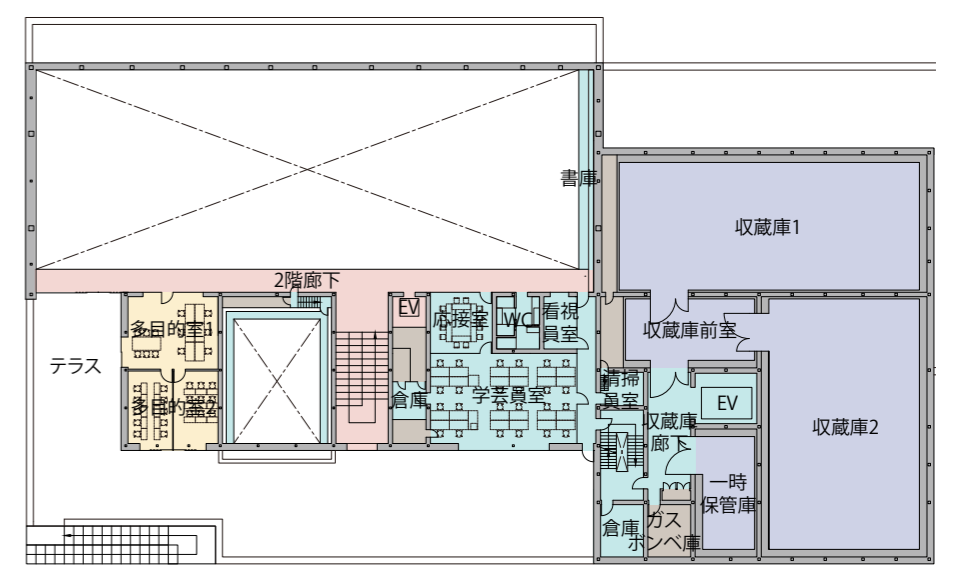
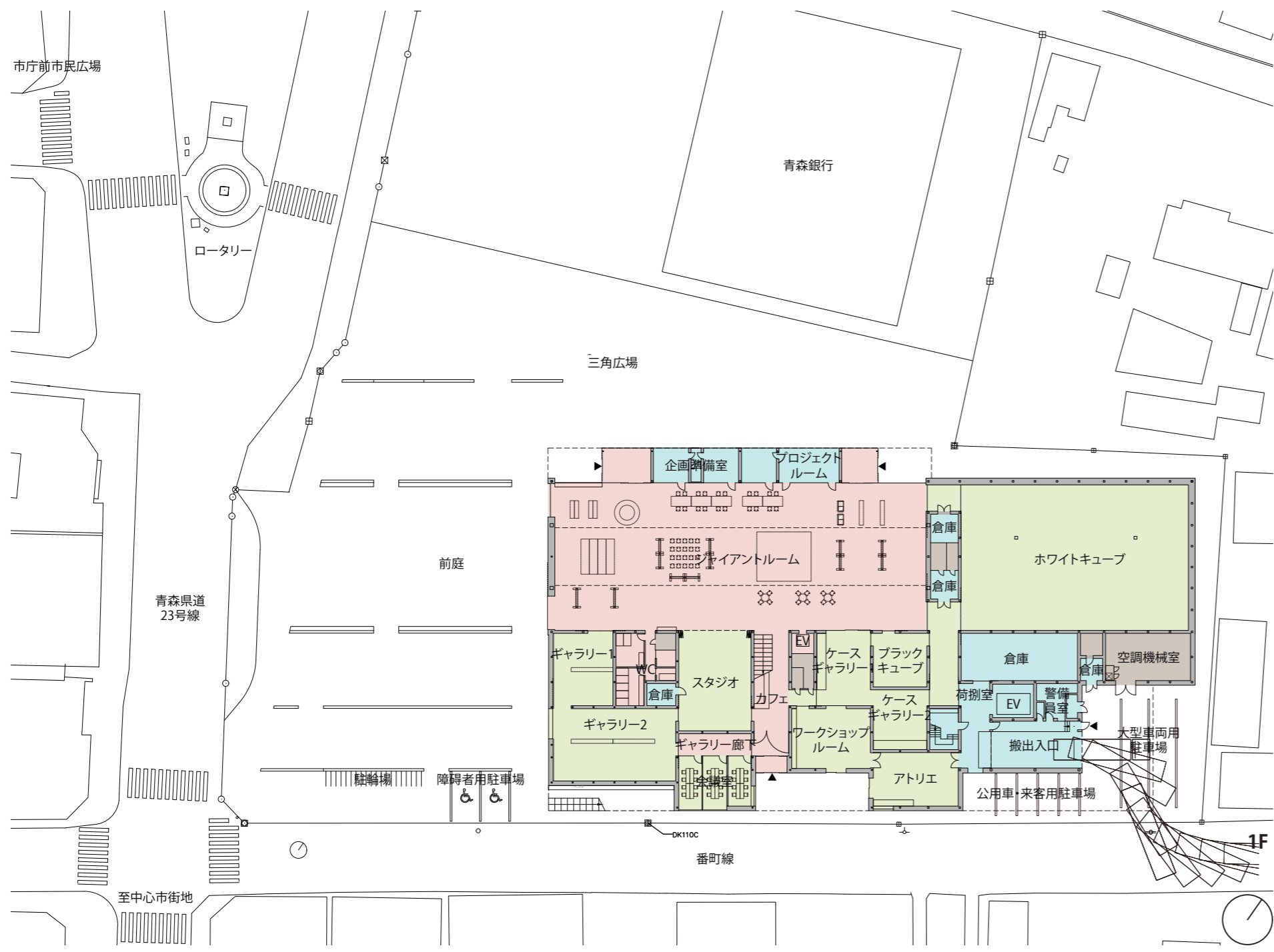
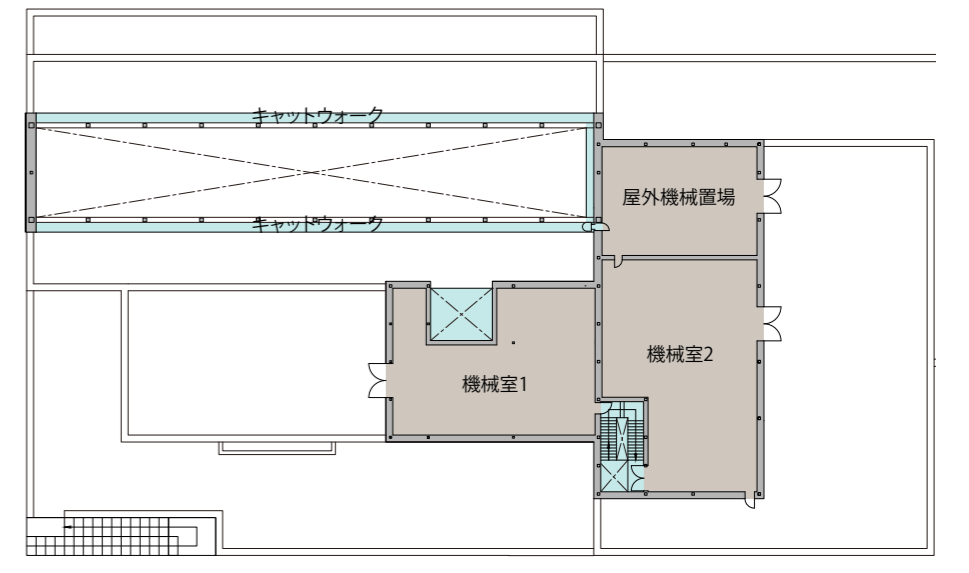


# 平面計画



2F



3F

## 配置

屋内化されたパブリックスペースであるジャイアントルームを敷地中央に配置し、その北側に、前庭と市庁前市民広場・ロータリーから連続する三角広場をつくる。三角広場は本八戸駅と中心市街地からの動線を吸い込むような形状をしており、駅と中心市街地をうまく結びつけるアプローチとなる。個室群は番町線側に配置し、小さなボリュームを連ねることで街に合わせたスケールとする。また、番町線に面して開口を設け、活動を外から見えるようにすることで、街のにぎわいを生みだす。

## ゾーニング

展示室や各専門室といった、主に来館者の用に供する部屋はすべて1階にまとめ、容易にアクセスできるようにしている。事務室や収納庫などの職員スペースは2階に上げることでセキュリティや執務環境に配慮しつつも、ジャイアントルームの吹き抜けを通じて気配や活動自体はお互いに感じることができる。設備スペースはホワイトキューブの隣や収納庫の直上に置くことで、ダクト、配管ルートを効率化している。

## 動線

北面からジャイアントルームに入り、各室へと分岐していくルートを中心に動線とする。番町線側にも入口を設け、個室群への作品や物資の搬出入に使用できる。個室同士はジャイアントルームを介さずに一連の動線でつなげることが可能で、全館、あるいはいくつかの個室を連携させた展示や企画もできる。職員専用口は番町線東側に設け、来館者動線とは分離する。搬出入口と各展示室、収納庫、学芸員室間はコンパクトな動線とし、作品の移動や調査を容易におこなうことができる。